

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600088		
法人名	社会福祉法人 立縫会		
事業所名	グループホーム 静妙庵	ユニット名	妙なり邸
所在地	宮崎県日向市美々津町4083番地		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所から太平洋日向灘が一望でき、風光明媚な景色が広がっている。敷地内に特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設しているので、歩行訓練や散歩などの気分転換を図りながら知人や地域の方との交流もできる。その人らしい穏やかな生活を送っていただけるよう一人ひとりの生活歴や習慣、なじみの関係を大切にしながら施設での環境や空間づくりを行っている。また、家族とともに施設や地域の行事に参加し楽しむことができる。敷地内に畑もあるので季節の野菜を収穫し、食事として提供している。毎月、認知症研修や口腔ケア研修を行い、職員の知識や技術の向上に努めている。また、ICTを積極的に導入し、業務の効率化を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の運営する特別養護老人ホームやデイサービスに隣接するホームである。管理者と職員は法人の理念と共にホームの理念「利用者の目で創造し支援する」を基本に情報の共有と連携を図り日々の支援に取り組んでいる。また、利用者や家族が安心できるよう年賀状や電話をはじめ、テレビ電話での顔の見える会話の支援に取り組んでいる。昨年より電子システムを導入し、業務の効率化に取り組み、利用者の日々の支援に生かすよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングの際に全員で法人や事業所の理念の読み上げを行い、意識の共有を図り実践につなげている。	法人の理念と共にホームの理念である「利用者の目で創造、一人ひとりの尊厳を守るケア」を全職員で共有し、日々の支援に生かせるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は地域の行事に参加したり、茶話会を開催し施設にきていただいたが、今年は感染症予防の観点から中止になっている。日常的に近所のお店や病院を利用した際に地域の方と会話やふれあうことはできている。	ボランティアの受け入れや、外部講師を迎えて茶話会などが開催されていたが現在感染症予防の為に中止になっている。地元の学校の体験学習などを受け入れ交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、施設見学や実習生の受け入れを行っている。茶話会を実施することができなかったので地域の方に向けての発信はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や活動状況を報告し、アドバイスをもらって、日々のサービス向上に生かしている。	会議では家族代表や有識者の参加があり、現在の取組事項や状況報告をしている。参加者からの人材確保、口腔ケアなどの様々なアドバイスもあり日々のサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に出席していただき、事業所の運営状況や活動状況を報告し、アドバイスや意見をいただき、日々のサービス向上に生かしている。	行政担当者とは会議の参加時や、利用者の状況変化など伝えるようにしている。管理者は不安や分からない事は担当者にアドバイスをもらうなど連携を図り日々の支援に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束等適正化委員会を開催している。また、外部講師などを招いて、身体拘束の研修会を行っている。家族より身体拘束になるような行為の希望あった場合にもしない方で納得いただけるよう話し合いを行っている。	外部講師を招いての研修会や職員研修が定期的に行われている。今回は感染症予防の為に資料を基に自己研修となっている。職員間で身体拘束の弊害について意識の共有を図り日々の支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を日ごろから行い、虐待防止に努めている。虐待ではないかと思われるような声掛けや対応を見かけたときにはその場で声掛けや話し合いを行い、お互いに注意しあえる環境づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族がわかりやすいように説明を行い、疑問点や不安要素がないか尋ねている。不安を助長しないような雰囲気づくりに努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで受けた意見を職員間で共有し、推進会議などで外部へ表し、運営に反映できるように努めている。		来訪時や電話での状況の共有に努めている。手紙に利用者の写真を添えるなど配慮し、意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署別会議や全体会議、朝のミーティングなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、普段からコミュニケーションを深め、話しかけやすい雰囲気づくりに努めている。		日頃から職員の意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。提案や意見は運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための支援や勉強会、面談を行い、職員の意識が高められるよう支援したり、職場環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての全体会議で社内研修や外部研修参加、勉強会を定期的に行っていたが、今年度は感染症予防の観点から研修資料の配布を行い、各自自主研修をすることで自己向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム研修などに参加し、ほかの施設の取り組みや支援方法についての情報交換を行い、自施設のサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や入所以降、本人に合わせた声掛けや配慮を行い安心して生活できるよう支援している。本人の気持ちに寄り添い、自宅での生活に近い雰囲気づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みや面接時に要望や不安に思われていること、これまでの生活のことを尋ね、安心して利用できるように関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族の状態把握を行い、要望をもとに必要としている支援について考え、できるだけ対応できるよう他事業所との相談を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合い、必要としている関係を構築しながら、お互いにお礼を言い合える関係性づくりに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのふれあいやコミュニケーションを大切にし、相談しあいながら何でも話ができる関係を築けるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の病院や商店街を利用し、地域のかかわりを持ちながら生活できるよう支援している。	感染防止に努めながら地域の商店、デイサービスに行ったり、テレビ電話や年賀状の作成を支援するなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人のペースや空間を大事にしながら、行事参加を促したり、利用者同士のかかわりができるようきっかけや雰囲気づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても様子を伺ったり、受診などでお会いしたときには声掛けを行っている。退所時には、いつでもいらしてくださいと声掛けしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を普段の会話や支援の中で聞いたり、気づいたりすることで思いに寄り添えるよう努めている。	比較的に声に出せる方が多いが、家族の思いも含め日常の支援の中で、本人の希望や意向を図れるように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人に生活歴やなじみの関係、生活習慣などの聞き取りを行い、情報収集に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録や電子システムに記録し、職員間で把握、周知を行っている。特記事項や変更事項については、電子システムの申し込み欄や連絡ノートに記載し、早期に周知できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちに寄り添い、家族の意向やスタッフの気づきなどを話し合いながら本人らしくよりよい生活になるようなプランを作成している。	本人や家族の思いを日頃の関わりの中で把握するようにしている。アセスメントやモニタリングを全職員で行い、また会議録も全員で共有し現状に即した介護計画となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や業務日誌、電子システムに記録し、情報を共有しながら必要に応じて会議を行い、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時に状況、訴えに応じてあらゆる職員が勤務にとらわれず対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の病院や商店街を利用し、地域とのかかわりを持ちながら生活できるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による診察の継続ができています。受診の際には、職員の同行や「お知らせ」用紙にて施設での様子や普段の健康状態などを報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。	希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得る事もあるが、現在はほとんどホームでの対応としている。家族とは情報共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時や変化に気づいたときには、職員間で情報共有を行い、看護師やリーダーに報告し、早期受診ができるよう対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や電話にて状態把握を行い、病院や家族との情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での生活が困難になったときの生活の場について入所時家族や本人に意向を確認している。また、入所後も必要時に聞き取り確認し、家族や本人の不安を取り除けるよう支援している。終末期ケアについては実施していない。	入居時にホームにできる事を利用者や家族に説明し意思確認書を作成している。状況や状態変化に伴い本人や家族の意向を随時確認しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	計画的に緊急時の対応研修や心肺蘇生法訓練に参加し、応急手当や初期対応の訓練を行うことで、実践力を身に付けられるよう努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回夜間や日中を想定した避難訓練を実施し、消防署や消防団、防災機器会社に参加していただいている。職員全員が適切に避難誘導ができるよう訓練を行っている。	年3回の避難訓練をはじめ、通報装置の確認など全職員で取り組んでいる。前回の課題であった地域消防団との連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴や役歴に考慮した声掛けや呼び方を行い、人格を損なわないよう配慮している。	利用者個々の生活習慣や性格に配慮している。排せつや入浴支援時の言葉かけにも工夫をし、さり気ない言葉かけで誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か食べたい、外にでたい、買い物にいきたいなどの希望に合わせて対応している。職員が対応できないときには、家族に相談し、依頼している。また、希望や訴えが言いやすい環境づくりに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう配慮している。訴えがない方にはこちらから尋ねて、本人の希望に合わせて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んだ服や小物を着用していただいている。自分で選べない方でも選択できるような声掛けを行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台ふきや箸配り、茶わん洗いなどできることを職員と一緒にやっている。	家族からの差し入れや園庭の畑で野菜を職員と共に収穫し調理している。ユニットごとに日々の献立を職員と利用者で立てるなど工夫している。利用者が出来る事で参加をし食事が楽しめるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電子システムを使用し、量の把握を行い、栄養補助食品や本人の嗜好品を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。毎日できない方は歯科受診や往診、歯科衛生士による口腔ケア指導日にケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子システムを使用し、排せつのパターンを把握して声掛け誘導に努めている。	電子システムを導入し、排せつパターンの把握に努めている。一人ひとりに合わせたパット類も利用してトイレでの排せつ支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にオリゴ糖の使用や運動、食物繊維が摂れる食材を使用し、スムーズな排せつができるよう配慮している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴を行っているが、本人の希望や気分に合わせて対応している。入浴時間もそれぞれに合わせている。	利用者の希望に合わせて無理強いせず待つことを心がけて声かけしている。浴室も一般浴室と特殊浴室があり、利用者の状態に合わせてゆっくりと入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターンで生活できるよう声掛けや支援を行っている。食事や入浴の声掛けは行うが本人の入る準備ができたり、ホールにこられるまで待っている。安眠できるよう寝る体勢に配慮したり、マットなどを使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、誰が何を内服しているか、すぐわかるようにしている。薬の内容や副作用など朝のミーティングや会議の中で周知したり、把握できるよう配慮している。症状などの記録も行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできることや楽しみを一緒に考え、行っている。裁縫や家事、計算問題などこれまでの生活や趣味を継続しながら役割をもって生活できるよう配慮している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って外出を行っているが、今年は感染症予防もあり、あまり遠方への買い物ができている。近所を散歩したり、買い物への支援はできている。	感染予防対策を行いながら地域への散歩や、利用者の希望の買い物支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	妙なり邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、財布や現金を所持されている。買い物に行ったときは、自分で支払いをし、買い物を楽しんでいただいている。また、現金をもつことで安心していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々、家族や親せきに電話をしたり、年賀状やお手紙をだせるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整理されている。居心地よく過ごせるよう常に職員みんなで気づきを話し合いながら、工夫している。季節に応じた掲示物や置物を配置している。	中庭を中心に廊下でユニット間がつながっており、利用者が自由に行き来できるようにしている。共用空間には季節を感じるよう装飾し、テーブルやソファ、椅子を配置し、利用者が好みの場所でくつろげるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにベッドを置き、みんながいるところで安心して過ごされたり、テレビの横のソファは団欒の場所になっている。時々、そこで一人外を眺めたり、日光浴をする場所にもなっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中は本人が使いなれたものを使用し、使いやすいように配置している。自宅の居室になるべく近い配置になるよう配慮している。	タンスやテレビ、家族の写真などを持ち込み、飾りつけに配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室、洗面台に、本人が理解しやすいように手順や場所を書いたものを貼付している。自分でつぎにどうすればいいのか、どこになにがあるのか気づきやすいように配慮している。			